

【餅つき】

12月25日から30日ころまでに、臼と杵を使って正月用の餅をつきます。29日は苦餅として忌むところが多く、また大晦日につくのも一夜餅として忌むことも各地で見られます。

餅は年神への重要な供え物であり、まず大きな鏡餅をつくり、次に神々への供え餅をつくりました。このように餅つきは神聖なものとして考えられています。

うるち米でついた白い餅以外に、アワ、キビ、モロコシなどの雑穀を混ぜた餅などもあります。東日本では四角く切ったものが多く、西日本では丸餅が多いようです。



あそんでみよう！

【準備】

- ・協力してくれる農家を探す。
- ・餅つきの道具は、地域の小学校、公民館等に借用またはレンタル(有料)する。
- ・地域のジュニア・リーダーに協力依頼する。

【進め方・ルール】

- (1) 4月に子どもたちを募集し、年間のスケジュールについて説明会を開く。
 - (2) 農家の指導により、子どもたちと5~6月に餅米の田植えをする。
 - (3) 収穫までの草むしり等の手入れを農家をお願いする。
- ※可能であれば、子どもたちにも体験してもらう。
- (4) 9~10月に収穫をして、脱穀しておく。
 - (5) ジュニア・リーダーの協力を得て、子どもたちと12月に餅つき大会を実施する。
 - (6) 餅つき体験だけでなく、バリエーションとして大福、イチゴ大福、きなこ餅、バター餅作りやミニ御供(おそなえ)作り等も実施するとよい。

※ボランティアとして餅つき経験者を募集するとよりスムーズにいくだろう。



臼と杵



のし餅



お供えづくり